

## (4) たばこ

重点分野別 目標	たばこの害について正しく理解し、 たばこの害から身を守りましょう。	総合評価
		A

## 総合評価の内容および今後の推進方策

成人や未成年者の喫煙率が低下し、COPDの認知度が高まるなど、全体として概ね改善の方向にあることから、市民がたばこの健康影響について理解を深めてきていると考えられます。

喫煙は様々な疾患の原因となるため、新たな喫煙者を増やさないとともに、禁煙を希望する人がたばこをやめることができるようたばこの害について広く普及していく必要があります。

今後もたばこを吸わない人も含め、すべての人がたばこの害から自分自身の健康を守れるよう各ライフステージに合わせた支援をしていきます。また、「市の管理する公共施設の受動喫煙防止対策に関する指針」に沿った取組を実施し、公共の場における受動喫煙を防止するための環境づくりを推進していきます。

個別目標	<b>【行動目標】</b> 1 未成年者の喫煙をなくしましょう。……………46 2 成人の喫煙率を減少させましょう。……………47 3 COPD（慢性閉塞性肺疾患）について理解を深めましょう。……………48 4 妊娠中の喫煙をなくしましょう。……………49
	<b>【環境目標】</b> 1 たばこの害から身を守るために、受動喫煙を防止しましょう。……………50

## (4)たばこ

行動目標 1

目標

# 未成年者の喫煙をなくしましょう。

ライフステージ：少年期、青年期

## 指標の推移と中間評価

項目		基準値	中間値	目標値	中間評価
未成年者の喫煙率	15歳以下	0%	0.0%	0%	◎
	16～19歳	8.6%	0.0%	0%	◎

基準値：平成21年度市民健康意識調査

中間値：平成28年度市民健康意識調査

未成年者の喫煙率は、15歳以下、16～19歳ともに0%で望ましい状況にありました。

## 課題と今後の方向

未成年者の喫煙は法律で禁じられており、未成年のうちから喫煙を始めると、成人後に喫煙を開始した場合に比べて、がんや虚血性心疾患などの危険性がより高くなります。また、吸い始める年齢が低いほど、ニコチンへの依存度が高い人が多くなると報告されています。

今後も、未成年者がたばこに関して正しい知識を持ち、喫煙について適切な意思決定ができるよう、未成年者の実態に応じた支援を行うとともに、喫煙防止教育の充実をはかります。また、未成年者は周囲の影響を受けやすいことから、保護者や周囲の大人達の支援が重要です。そのため、健康教育での情報提供等により、未成年者の喫煙が健康に及ぼす影響について広く知識の普及につとめます。

## 個別目標達成のため推進する主な取組

- 健康教育・健康相談
- たばこの害知識普及
- 小中学校における健康教育
- 薬物乱用防止教室

## (4)たばこ

## 行動目標 2

目標

# 成人の喫煙率を減少させましょう。

ライフステージ：青年期、壮年期、中年期、高齢期

## 指標の推移と中間評価

項 目		基準値	中間値	目標値	中間評価
習慣的に喫煙する人の割合	20歳以上	20.0%	17.2%	12.5%	△

基準値：平成21年度市民健康意識調査

中間値：平成28年度市民健康意識調査

習慣的に喫煙する人の割合は基準値より低下し、改善がみられました。

## 課題と今後の方向

たばこは有害物質を多く含んでおり、がん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、脳卒中、心筋梗塞など様々な疾患の原因となります。平成28年度市民健康意識調査では、喫煙者のうち禁煙希望者が33.0%いることから、禁煙を希望する人がたばこをやめることができるように、禁煙外来の紹介等の禁煙方法について知識を普及していく必要があります。また、新たな喫煙者を増やさないように、たばこを吸わない若い世代に対しても広くたばこの害について周知をはかります。さらに、様々な人が集客できる機会を捉え、たばこの健康影響について知識の普及につとめます。

## 個別目標達成のため推進する主な取組


- 特定健康診査・特定保健指導事業
- 健康教育・健康相談
- たばこの害知識普及

目標

# COPD（慢性閉塞性肺疾患）について理解を深めましょう。

ライフステージ：青年期、壮年期、中年期、高齢期

## 指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
COPDについて知っている人の割合	36.1% (参考値(40~74歳))	50.2% (40~74歳)	増加傾向へ	

基準値：平成24年度秋田市メタボリックシンドロームと健康に関する調査（秋田市国保加入者対象）

中間値：平成28年度市民健康意識調査

COPDについて知っている人の割合は、基準値より増加し、改善がみられました。

## 課題と今後の方向

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の主要原因は、長期にわたる喫煙習慣であり、緩徐に呼吸障害が進行します。今後も全国的に患者数が増加することが懸念されており、未受診あるいは診断されていない患者が多いとも考えられています。COPDは、早期に禁煙するほど発症予防と進行阻止の有効性は高いとされているため、今後も認知度をさらに高めていく必要があります。

COPDが予防可能な生活習慣病であることについて理解を促進するために、「健康教育」、「たばこの害知識普及事業」等を通して、名称や疾患に関する知識の普及につとめます。また、禁煙希望者に対し、禁煙外来の紹介等の支援にも取り組みます。

## 個別目標達成のため推進する主な取組

- 特定健康診査・特定保健指導事業
- 健康教育・健康相談
- たばこの害知識普及

## (4)たばこ

行動目標4

目標

# 妊娠中の喫煙をなくしましょう。

ライフステージ：青年期、壮年期

## 指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
妊娠中に喫煙している人の割合	3.4%	2.4%	0%	△

基準値：平成22年度秋田市4か月児健診の「妊娠・出産時の状況アンケート」

中間値：平成27年度秋田市4か月児健診の「妊娠・出産時の状況アンケート」

妊娠中に喫煙している人の割合は、基準値より低下し、改善がみられました。

## 課題と今後の方向

妊娠中の喫煙は、早期破水や流産等のリスクを高めるなどの母体への影響のみならず、児の低体重、出生後の乳幼児突然死症候群のリスクとなります。妊娠中の喫煙をなくすため、妊婦やその周囲の喫煙者に対しても、たばこの害について知識を広く普及していく必要があります。そのため、「母子健康手帳交付時」や「両親学級」、「妊娠期からの相談支援事業（秋田市版ネウボラ）」等を通じて、リーフレットの配布などを行い、たばこの害に関する知識の普及啓発につとめます。

## 個別目標達成のため推進する主な取組

- 健康教育・健康相談
- たばこの害知識普及
- 健康教育・健康相談（母子）
- マタニティ食生活講座→食生活学級【H29～】
- 両親学級
- 妊娠期からの相談支援事業（秋田市版ネウボラ）【H28～】

◎ 計画策定後に開始した取組は、開始年度を【 】内に表示

(4)たばこ

環境目標 1

目標

たばこの害から身を守るために、  
受動喫煙を防止しましょう。

ライフステージ：幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高齢期

指標の推移と中間評価

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
市の管理する施設で禁煙および効果的な分煙をしている施設の割合	91.3%	92.1%	100%	△

基準値：平成22年度秋田市における公共施設等の禁煙・分煙実施状況調査

中間値：平成28年度市の管理する公共施設の受動喫煙防止対策実施状況調査

項目	基準値	中間値	目標値	中間評価
子どもへのたばこの害について特に配慮していない人の割合	18.0%	10.1%	5.6%	○

基準値：平成21年度市民健康意識調査

中間値：平成28年度市民健康意識調査

市の管理する施設で禁煙および効果的な分煙をしている施設の割合はわずかに上昇し、子どもへのたばこの害について特に配慮していない人の割合は低下しており、改善がみられました。

課題と今後の方向

たばこは、喫煙者だけではなく、周囲の人の健康にも悪影響を及ぼすことから、受動喫煙を防止するための環境づくりの推進が重要です。特に市の管理する施設は、多くの人々が利用する施設でもあるため、受動喫煙防止対策をさらに進めていく必要があります。

今後も「受動喫煙防止事業」として、「市の管理する公共施設の受動喫煙防止対策に関する指針」の普及啓発、施設における受動喫煙防止対策実施状況の把握を行い、指針に沿った取組を推進していきます。また、「たばこの害知識普及事業」、「両親学級」、「小中学校における健康教育」等により、たばこの害について知識の普及につとめます。特に健康被害を受けやすい子ども等への受動喫煙防止の重要性について、引き続き啓発につとめます。

個別目標達成のため推進する主な取組

- 健康教育・健康相談
- 受動喫煙防止事業
- たばこの害知識普及
- 健康教育・健康相談（母子）
- マタニティ食生活講座→食生活学級【H29～】
- 両親学級
- 小中学校における健康教育
- 妊娠期からの相談支援事業（秋田市版ネウボラ）【H28～】

◎ 計画策定後に開始した取組は、開始年度を【 】内に表示

第三章

たばこ